

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

自己評価期間	平成 20 年 10 月 6 日～10 月 27 日	参加者 8 名
記入年月日	平成 20 年 11 月 15 日	
事業所名	グループホームたけのこ	
事業所番号	2372001418	
記入者名	職名ユニットリーダー氏名	伊奈 裕輔
連絡先電話番号	0532-45-6213	

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営 1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念→いつまでも普通に暮らせるノーマライゼーションを基本とします。1.利用者の自己決定を大切にします。2.利用者の自立支援を図ります。3.利用者の個別支援を大切にします。4.身体拘束・抑制はしません。5.利用者の権利擁護を図ります。6.家族との連携を大切にします。7.地域との連携を大切にします。8.We must not let them down.(9.戸締り用心火の用心。10.手洗いうがいはいはしっかりしましょう。)8.9.10番目はスタッフが生活の中で気づき守りたいことをあげています。		自分が大切にしていることを新方針にするコンテストを11月に全職員で行い。全職員で投票した結果、9、10、を平成21年から新しい方針へリニューアルして取り組んでいくことにしている。「目くばり 気くばり 心くばり」「今日も一日 スマイリー」を採用実行していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域への買い物や公園等のお出かけ、または、地域の方を行事へ招くということで交流を深め地域の方に理解していただくように努めている。朝の申し送りにて、皆で復唱している。代表との日誌を使った意見交換、ユニットミーティング、リーダーミーティングを通して理念の実践について確認ができている。職員が理念に反する行いをした時は(言葉遣い、呼び捨て)気をつけるよう指導している。	○	暗記はしているが、身につけているか確認が必要。ただ唱えるだけで実践につながっていないのもっと皆が意識できるようにするための具体的な方法をユニット会議で検討していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に理念を書いた紙が張っており、誰でも見れるようになっている。パンフレットが作ってある。絵本をつくり紹介している。運営推進会議でビデオで活動報告している。家族の方に新聞を発行し、活動内容を報告している。散歩時は挨拶をする。利用者が近隣に迷惑をかけていることにはお詫びに回っている。七夕会や盆踊り、記念祭にチラシを配り参加を呼びかけている。	○	地域の高齢者の方が気軽にホームに来れるような環境づくり。チラシの配布範囲が町内だけなのでも少し広げたい。一部の家族にしか伝わっていないのではないかと。玄関に理念を飾るなどして理念がわかりやすく。目に入るようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>年中行事をオープンにして開催している。散歩で会った人には挨拶している。陶芸工房があり、誰でも参加できる。校区の回覧板をたけのこに回してもらっている。磯辺小学校の社会見学で2年生20名が来訪。南部中学生3名がボランティアに2回来た。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>毎年、保育園の敬老会に参加させていただいている。校区主催の作品展(ささやか展)への作品の出品をしている(5回)。たけのこで作ったクッキーを300個配布している。買い物はほぼヤマナカで済ませており、理解して下さっている。地元神社の餅投げには年2回参加している。</p>	
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>あまり出来ていない。ホーム内も十分でないのに地域の高齢者にまで手が届かない。運動場をつくりゲートボールができるようにしている。回覧板をまわしながら近所のお年寄りにも声をかけている。デイサービスの利用。陶芸教室を開いている。</p>	<p>○ たけのこ新聞や行事のさそいのチラシなどを配りながら話を聞いたり範囲を広めていきたい。気軽に地域の相談窓口になるような環境づくり。介護相談所ののぼりなどを掲げてみる。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>スタッフ全員が自己評価を行っている。自己評価、外部評価をもとに改善点を取り上げ、改善に取り組んだ。自分が気づかない点を発見したり、他者に知恵やヒントが刺激になっている。</p>	<p>○ 外部評価へは自分たちの気づかない点を発見していただき改善、またどうしたら良いかの知恵、ヒントを一緒に探して欲しい。定期的に見直しをする機会を作る。改善計画が挫折したままになっているのでどうにかしたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一度、町総代、長寿会会長、民生員、保育園園長、包括支援センター、家族が参加している。各ユニットリーダーが、散歩、入浴、受診状況などを集計して報告。毎月の生活の様子はスライドで上映している。水害時の避難所について相談し、意見を頂いている。役員の方におやつ作りに参加して頂きホームの生活を体験して頂いた。今年は、一般職員の参加の機会がないので、内容を知らない職員も多い</p>	<p>○ 参加していない人も少しでもわかるように、簡単に内容をまとめたものをファイルしていきたい。議事録をスタッフルームで閲覧できるようにする。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	保育園の敬老会には参加している。災害時には市職員が様子を見に来た。後日報告を兼ねお礼に伺った。介護保険更新申請時に毎月市役所を訪問し、情報交換している。運営推進会議議事録は毎回高齢福祉課に提出している。	○	月に一回、市町村との交流について報告の機会を設ける。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日常生活権利擁護事業利用者が1名いる。冊子を配った。11月7日に名古屋法務局人権擁護委員会や民生委員の人々との共催で「福祉施設で人権を考える集い」を行った。	○	勉強会を開いて欲しいという要望について、具体的権利擁護利用者等について、ケア会議や申し送りで最近の情報とともに分かりやすく伝えていく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に「身体拘束・抑制はしません」とある。利用者さんにアザ・傷がある場合、出きる限りの理由を添えて記録している。豊橋市主催の講演会に2名参加。不適切な言葉かけにはその都度注意をしている。利用者への接し方、態度に問題がないかリーダーミーティングにて取り上げられ、職員がお互いに注意するようにしている。入浴時や着替え時に身体にあざや傷がないか観察している。	○	職員同士で虐待に対する意識を高めるべき。利用者をからかう行為に対してきちんと注意すべき。勉強会を開いて欲しいという要望に対して、具体的事例を通して申し送り等で伝えていく。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・事務長が実際に所内を案内しながら説明している。契約時には、重要事項説明書、契約書ともに署名捺印をお願いしている。重要事項説明書・契約書には利用者、事業所の権利と義務が記載されている。病気などで重度化した場合でも、本人、家族の希望によりできる限り最後までたけのこで生活できると伝えている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できる人はケア会議に参加し、本人から話をきいている(言える人と言えない人がいる)。ケア会議は土日と行事時以外毎日行っている。事務所で話す人もいる。献立会議では希望を聞き取り入れている。介護相談員が2ヶ月に1回、利用者と面談をしている。事務所でお茶を飲みながら話をする機会は毎日ある。利用者の言動を記録表に記入しケア会議にて話し合いケアに反映させている。記録表は家族へ毎月提出されている。利用者同士の衝突は防げないときもある。	○	利用者の人間関係等に関する不満をもっと職員が時間を取って聴けると良い。利用者の要望・希望を生活記録の中に残し拾っていくために、マーカーで強調するなどの工夫をする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活記録表やたけのこ新聞を月1でまとめて送っている。あわせて金銭管理簿、お知らせを請求時に送付している。家族の面会時には現在のケアの内容、現状等を伝えている。健康状態ぬ異変があった場合にはその都度家族の方へ連絡をしている。新入社員はたけのこ新聞で紹介しているが、退職者についてはできていない。	○	職員の異動についての報告をする。異変に気づいてから受診までが遅い。早期受診をもっと心掛けたいという意見について、受診についての方針を明確にし現場へ返していく。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	記録表に感想用の用紙を同封し、返信して頂いている。運営推進会議に参加して頂き、何かあれば伝えて頂いている。家族さんからの本音が聞けていない気がする。家族の方が集まりホームの食事を作る会を開かれている。外部評価の家族アンケートには本音が出されているだろうか。	○	家族の要望をスタッフ全員が理解し共有化し。職員の家族への接し方を見直していきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日業務ノートを書き、意見交換を行っている。ユニット会議2回/月、パート会議で話し合った結果の報告を受けている。リーダー会議で話し合い決定している。会議が多いので、利用者のケアにシワ寄せがないか心配する家族もいる。	○	提案に対して反対されることが多い。もっと意見を聞いて欲しいという意見がある。業務ノートを活用し真意が伝わるように努力して欲しい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ユニットリーダー・事務所にて調整を行っているが、時々スタッフの人数が少ないときがある。とくに会議の時には一人でユニットをみるときがある。行事のときは多くなるように組んでいる。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者はやむを得ない理由以外、話を聞くなどをして離職を抑える努力をしている。ユニット間の異動はあるがケア会議や日々顔を見てもらうことで利用者への対応は上手くできている。退職する時は事務所で相談にのり、挨拶して知らせるようにしている。求人は情報誌、ハローワーク、専門学校、職員からの紹介など切れ目がないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保、講習会への参加。他施設、他ホームへ研修、見学へ行ったり、来てもらいお互いに意見交換をしている。パートさんのミーティング。新人の勉強会を行っている。認知症実践者研修修了者4名。全体の研修の機会は少ない。	○ 法人内研修を毎月行って行きたい。社外で行われる研修にはリーダーしか行かないのでスタッフもいけるようにして欲しい。法人外の研修は機会が少ないので段階を踏んで行っているが伝わっていない。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「グループホームこころ」から2名3日間実習に来た。たけのこから交換に6名実習させて頂いた。ジョイアミユキから1名実習生が来る。	○ 東三河グループホーム連絡協議会東三河ブロックの会議で、相互交流を行っていく方向がでてきたので、すこずつ機会を拡げて行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務ノートに悩み事を書いたり、意見交換しているが、ストレスの溜まっている人もいると思う。職員の休憩スペースがある。ストレスの溜まっているスタッフに対して気にしてくれている。業務ノートに書けないこともあり、個人的にストレス解消をしている。管理者は上から余分なことは言わないようにし、職員間の話し合いを多く作り意見を出し合い、わだかまりがないようにしている。	○ さらに悩み事などを気軽に相談できるような関係作りに努める。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	実習へ行き、他施設の様子を見ることで向上心につながっている。運営者はほぼ毎日ホームへ来ており勤務状況を把握している。職員が業務ノートに書いたことに対しアドバイスなどの返答することで向上心が持てるように努めている。連続勤務が続いているスタッフのシフトを変えたり配慮している。それぞれの行事をスタッフが計画を立てて行っている。	○ 現状維持が精一杯で、向上心をというところまでいかない現状を考えていきたい。現状維持が大切なケアの目標であることが見えなくなってしまうのではないか。普通の暮らしが穏やかに続いていくことの支援が本当は奥が深いことに気づいていけると良い。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の意志で話せる方とは会話し、その中で困っていること不安なことを聞いている。本人が自分のことを話せない方は、家族に今までの生活状況を聞いている。利用し始めてしばらくは、ほぼ1対1対応をし、24時間シートを記入している。できる限り細かく記載し、他の職員と共有できるようにしている。デイの利用により職員、利用者が入居前にお互いを知る機会になっている。相談から利用に至るまで現場スタッフはあまり関わっていない。	○ 現場スタッフが話を聴ける機会を作って欲しい。受入れのためのケア会議を行ってきたい。利用者から話しかけられたときまず耳を傾け聞こうとする態度を示す。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	○	現場スタッフが話を聴ける機会を作って欲しい。受け入れのためのケア会議を行っていきたい。
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	○	まだ知らない一面を見つけていきたい。良いエピソードを記録に残し、ケア会議に反映させていってほしい。
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	○	それぞれの家族の都合に合わせた関係作りを考える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	週に1度来所される家族さんもいれば、全くこない家族さんもある。来所された際には、それぞれの方がくつろげる場所でお茶をのみながらくつろいで頂けるようにしている。家族と一緒に暮らしていたときの状況を聞き、利用者との会話の中に取り入れている。勤務年数が浅い職員は以前の関係を知らないことが多い。	○	料理を一緒につくり一緒に食べていく家族もいる。継続していけるよう支援していく。本人や家族がお互いにどのような関係性を求めているのか理解を深める為、ケア会議に参加してもらうなど話を聞く機会を作る。日々の生活に家族との関係性を認識できるような支援を考える。一部の家族に偏ってしまう。全ての家族から要望を聴けるようにしていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやり取り、電話の取り継ぎを行っている。行ける範囲に限りはあるが、行けるところは本人も一緒に出掛けたりしている。個人差が大きい。本人に届いた手紙を読んだり、返事を書いたり、お礼の電話をしたりする。歯医者、病院など今までの医院に行っている方もいる。	○	もう少し一人一人のケアを深く掘り下げて話し合いたい。ほとんどの人がなじみの場所にいけない、馴染みの人も会う機会が少ないので機会を作っていきたい。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	他者の行動が気になり、どうしても喧嘩してしまう時がある。予測できるときは(居室へ入ってしまう等)未然に防げる場合もある。馬の合わない方同士もいる。相性などの配慮をしながら、生活の中で利用者同士で協力したり、楽しんだりする場面を作り関係を深めるよう努めている。テーブルの配席や乗車の組み合わせも考えている。	○	弱い立場の利用者合わない利用者同士の関係に悩んでいる。共同生活で仲良くやっていくには、検討をしているが難しい。80年の人生経験の猛者と20年の人生経験の職員、太刀打できなくてしかたがないと思っていけばよい。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ごくたまに訪問されることがある。お茶をたててくださった。関わりがなくなってきている家族もある。年賀状やメールでの連絡がある方もいる。	○	サービス終了後にも行事などに招待していきたい。たけのこの現在の状況が分かるよう手紙や新聞を希望の家族に送れると良い。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さん・家族さんの要望を聴き、ケア会議で検討している。センター方式のCシートを取り入れ利用者一人ひとりの思いを読み取ろうと努めている。利用者の日々の言動や生活の様子を大切に記録し、それを基にケア会議にて本人の希望する生活ができるようケアを考えている。	○	センター方式がもっと活かせると良いと思う。Cシートの輝きバージョンをおこなって行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりのファイルがあり、生活歴等記載している。気になることがあれば、本人・家族さんから聞くようにしている。ケアマネから提供されている情報や本人、家族から直接聞くことで把握に努めている。入居時に生活歴を記入する用紙を渡し記入してもらっている。</p>	<p>○</p> <p>もっと理解できるように簡単にまとめた表を作りたい。</p>
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>記録表へ記入している。ケア会議にて見直し、把握するよう努めている。受診ノートを使い受診結果の情報共有ができています。受診ノートを使い受診結果の情報共有ができています。居室を中から施錠する利用者の過ごし方は把握できていない部分もある。</p>	<p>○</p> <p>認定調査時にわかりやすいよう、大きな変化があったときには(内出血や病気、骨折など)日にちや、その後の経過をファイルに挟んでおくといいと思う。記録がきちんとできていないと把握できないので記録を重視すべき。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケア会議を毎日(土日以外)行っている。家族さんが参加されることもある。ユニットミーティングで話し合うこともある。本人の言動、家族に相談して得た意見等をケア会議に出しケアの決定をしている。ケアに対して家族に相談してから実行している。ケア会議への家族参加もまれにある。</p>	<p>○</p> <p>会議の時間が限られているので効率のよい進行ができるよう考える。司会進行役の役割が重要となるので、司会役は、その日の生活計画を予習しておくといよい。</p>
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日順番に一人ずつケアの見直しを行い、1人につき約1月に1回の割合でケアの見直しが行えている。緊急の変化が起きた時はすぐに見直しを行う。急な変化があった場合、優先して見直しを行う。少しずつ体力が落ちているので毎日の変化をよく見て対応している。</p>	<p>○</p> <p>毎回積み残している課題もあるが、いつまでに方向を出すかの期日を明確にしておくことで解決していきたい。</p>
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の生活記録に記入している。水分の記録を追加した。ケア会議時に活かしている。</p>	<p>○</p> <p>記録漏れや記録不十分などところがあるのでしっかりやっていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出されることもよくある。デイサービス枠は1事業所あたり1日3名までなので、緊急の預かり宅老ができない。病院受診を家族にお願いをしたり、家族が都合がつかないときにはホームで受診にいたり、臨機応変に対応している。デイサービスの時間延長などは柔軟に対応している。	家族の要望が一部のスタッフしか伝わっていないので共有を心掛ける。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に1回消防士をホームに招き、救急救命講習を行ってもらっている。ボランティアの方に教室(気功、歌、踊り)を行ってもらっている。校区市民館で行われる趣味の作品展に参加。防災訓練など行っている。敬老の記念品を渡しに民生委員が訪問。その後ドーナツを持って再訪される。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行っていない。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者の家族で本人の年金や資産を流用したのではと疑われる事例について、地域包括支援センター、市役所と協議を重ね、市長申し立てで成年後見制度を利用できるようお願いをしている。地域包括支援センターからは、毎回運営推進会議への出席をお願いしている。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各医療機関を決めていて何かあれば敏速に対応ができるように努めている。家族には電話をして納得して頂いている。かかりつけ医に受診している方もいる。	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	成田記念病院の神経内科の先生。福祉村病院に受診をしている方もいる。川畑先生の異動で、専門医受診者は激減した。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		看護師の資格を持っている正社員がいてほしい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個室で、それぞれのプライバシーの確保を大切にしている。個人情報外部へ出さないようにしているが、記録はスタッフルームに保管されており、誰でも見れるようになっているため徹底は出来ていないと思う。一部スタッフの間で利用者に対しての言葉かけに問題があった為、リーダーミーティングにて議題として取り上げられた。トイレや入浴時、プライバシーの配慮に気をつけている。	○ 本人は相手に対し失礼なことをしていると気づいていないことがあり、職員同士で注意し合えるようにする。言葉遣いをなおしていきたい。忙しい、ゆとりがない自分を見つめていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分の思いや希望を思うように表せない方が多いので、こちらから聞き、一番あった方法をと考えている。献立会議では、メニューを利用者さんに決めて頂くが、ほとんどの方が”なんでもいいよ”と消極的になりがち。利用者応じた返答しやすい問いかけ、わかりやすい説明に心がけて関わるようにしている。調理は決まった利用者が多く、たまに他の方も手伝って下さる。行動を促す際には、本人に同意を得ようとしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	やりたくないことは無理にしないようにしている。寝たきりにさせない様に気を使いながらも一人ひとりのペースで生活できる様に支援している。忙しくて職員の都合で過ごしていただけてしまうこともある。利用者の希望には、日をあらためて添うようにしている。	日々の活動をもっと増やしたい。塗り絵、折り紙、ボール遊び、カルタ、トランプなどレパートリーを増やすことをユニット会議で検討する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時には洗面、整髪をしている。自分で行えない方もいるので、HOTタオルで対応している。所内で散髪している方や、馴染みの店で髪を切る方もいる。口紅などおしゃれをする方もいる。身だしなみやおしゃれにおいてはなるべく本人に選んで頂くようにしている。	○ 季節に合わない洋服を着ている時もあるのでスタッフで気をつけて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立会議を行っているが、職員や一部の利用者に偏ってしまう。一人ひとりの好みや食べる力を把握し調整しながら利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。一定の利用者で行うことが多い。たまに他の方も手伝ってくださる。	○	献立がなかなか希望に添えないので、メニューの選択肢をあげると良いと思う。他者に下膳されてしまうことを本人が下膳できるようにしたい。食事作りにより多くの人に参加していけるようにしたい。片付け、洗物で利用者が自発的に行えば協力体制をとって行動する。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きなおやつを買い物してくる利用者もいる。入浴後にビールを飲む方もいる。たばこは決められた場所で吸えるようになっている。ホーム内に喫煙所があり自由にタバコを吸うことができる。家族の方から預かっている飲み物等を状況に合わせて提供している。	○	おやつ時に、ジュース、コーヒー、紅茶等好きな飲み物を提供するようにする。何の食事のとき残さず食べるか嗜好調査をしたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表が新しくでき、一目でわかるようになったため、声掛けが行き届きやすくなったと思う。自らトイレへ行きパットがうまく当てられず、失禁が多くなってしまったため、日中も紙パンツになってしまった利用者が2名いる。排泄パターン、本人の気持ち、尿漏れなど様々な状況があるが、本人の能力に応じた支援をしている。	○	紙パンツだからと安心しないで、声掛けを行っていききたい。排尿・排便のあった時間の記録、様子などもしっかりと記録に残しておく。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっておらず、好きな時間に入浴できる。入浴の声掛けの際は、無理に誘わないようにしている。しかし、入浴拒否が続いたりすると、嫌でも入浴して頂くようお願いをしている。便失禁があれば先に入浴している。朝一で入る方がいつも同じで、それに対し他者から文句の言葉が出る職員の体制で希望に添えないときもある。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個室があるので自分の好きな時に自由に休んでいる。夜間はぐっすり安眠されるかたが多い。起きてきてしまう方もおり、居室案内やお話などしている。外出などで疲れた場合、居室で休んでいたくこともある。寝たくもないのに就寝時間を他の利用者に強要される方もいる。	○	他の利用者にも、就寝時間を支配されてしまう方には共用スペースに案内する等の工夫をする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理・洗濯・囲碁・音楽・外出・散歩、買い物、あみもの、お手玉など、それぞれの得意分野を生かして役割や楽しみを支援している。	アクティビティの時間が少なすぎたり、一人の入居者に偏ってしまったりしているので、公平に時間をとって行きたい。歌の会、気功がない日のカラオケ、手芸、折り紙など退屈しないように考えたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方もいる。数名の利用者は1000円所持しているが、それ以外は事務所で管理している。買い物時欲しいものは購入できるようにしており、領収証を頂いている。	出かけることがあまりない入居者はお金を使う機会がないのもっと増やしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日交代で買い物へ出かけている。それ以外にも、月1での外出や行事などがある。最近は順番に喫茶店へいく計画を進めているが、雨天が多くなかなか順調には進まない。外出を好まない方もいる。	○ 喫茶店へ行くペースが定まっていないので、予定一覧表を作成し定期的にいけるようにする。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族旅行へ出かけられる方もいらっしゃいます。月1で外出はしています。伊良湖ビューホテルへ日帰り温泉旅行を実施、7家族参加。一人一人の希望に添えていない。	○ 喫茶店へ行くペースが定まっていないので、予定一覧表を作成し定期的にいけるようにする。年に1回は希望のところへ行く。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話と取次ぎをしている。本人が電話をしたいと要求があった場合には家族の意思を確認し、直接家族に連絡を入れる場合と、スタッフが変わりに対応する場合がある。家族の意向もあり、難しい事があるが、家族の了解があれば自由にできる。年賀状を書くのを支援している。	○ 手紙を書くことがへってきているため、意識して取り組んでいきたい。字が書けなくなった人には絵でもよいので家族にへ送れるよう支援したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるよう、玄関は開放されている。季節の変わり目の時寝具や衣類の入れ替えをお願いしている。訪問者がある時は利用者と共にゆったりとした時間を過ごして頂けるように配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全ての職員に法律に関しての知識があるわけではないが身体拘束にあたる行為は行われていない。理念に「身体拘束・抑制はしません」とあるが、具体的なことを正しく理解しているかどうかは分からない。</p>	<p>○</p> <p>一度講習など開いてみたほうがいいのかも。「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解する。</p>
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は玄関に鍵をかけることはありません。その代わりに誰がどこにいるのか把握できるよう努めています。が、気付かない場合もありセコムをつけて頂いています。無断外出の多い方もおり、窓にセンサーの付いている方もいます。リビングに必ず1名スタッフがするようにしている。</p>	<p>○</p> <p>所在確認が不十分になるときがあるのできちんと行う。内側から居室の鍵をかける方、火災や地震のとき対応が遅れないか心配である。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>誰がどこにいるのか把握できるように出きるだけ回りに報告しあっています。落ち着きが無いときには寄り添う・見守るなど対応しています。一瞬で見失うこともある。</p>	<p>○</p> <p>排泄介助のとき、出終わるまで付き添われると排泄しにくいのか検討していきたい。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>一人ひとりの状態をよく注意し物によっては目の届かないところに置くようにしている。包丁などは、使用后なるべく早くしまうようにしている。異食を防ぐ為、果物の皮や生ゴミを早く片付ける。</p>	
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>転倒などあった場合、ヒヤリ・ハットを記入し対策を考えているが、繰り返し起きる方がいて難しい。行方不明に関して、17時ごろから19時ごろまで時間と対応を書き残しながら捜索を行った。その後からセコムを使用している。愛知防災さんによる防災訓練、消防士の方による救急救命講習をホームにて年に1回行っている。1人で外に出ていかれ行方不明になりやすい方にはSECOMを携帯してもらっている。転倒のリスクの可能性の高い方は職員のそばにいてもらうようにしている</p>	<p>○</p> <p>本人の行きそうな場所を知っておく必要もあるが、車だと大通りしか調べられないため、細道に入ってしまうとなかなか見つけれない。自転車とかも必要だと思う。窒息・誤薬の事故防止について、学ぶ機会があればと思う。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>職員・利用者と一緒に救急救命の講習を実施。マニュアルを作成している。</p>	<p>○</p> <p>入居者の年齢、既往歴等一覧表にしておくが良い。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間の訓練は行ったことがあるが、夜間は行っていない。実際に水害にあいかけ、他施設への避難の話まで進んだが避難しなかった。	<input type="radio"/>	夜間帯、水害時の避難方法、避難所の確保。地域の人々からの協力が得られるよう働きかける。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	居室に鍵をかける利用者がいるので災害時など手遅れになるのでは心配。転倒・無断外出など、リスクについては話している。事故があった場合には、速やかに連絡をとり、報告し、謝罪を行っている。	<input type="radio"/>	家族との話し合いを大切にする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ほぼ毎朝バイタルチェックをしている。何か変化があった場合、情報の共有や事務所に話している。異変があった場合には家族へ連絡し早期に病院受診をしている。	<input type="radio"/>	一人ひとりの体調を継続的な把握ができるよう徹底する。異変から受診までが遅いので早期受診を心掛ける。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を記録に貼っている。一人ひとりが使用している薬の目的や副作用を全て理解しているわけではない。下剤などは排便状況に合わせて用量を調節している。医師からの指示で薬の効果を弱める物や影響のある物は避けている。	<input type="radio"/>	完璧ではないので、しっかり理解できるように一覧にしたい。薬の種類をしっかりと認識し、どういった効果や副作用があるか調べる必要がある。服薬一覧表があると良い。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤を飲んでいる方もいる。毎朝スキムミルクヨーグルトを提供し、便秘の予防をしている。5年目になる。家族と相談しアロエや牛乳、健康茶の提供、散歩やラジオ体操への参加の呼びかけなどに取り組んでいる。調節がうまくできない方もいる。	<input type="radio"/>	どのような工夫ができるか検討し、スタッフ間で検討している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ずできているとはいきれないが、1日1回は必ずできている。月・木でポリドントへつけている。口臭が強かった方は、よく磨いた結果臭わなくなっている。部分入れ歯を外すのを嫌がり外せない方もいる。	<input type="radio"/>	食後全利用者の口腔ケアにあたるよう配慮する。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態で提供し、食事や水分の摂取量を記録し一日を通じて確保できるよう配慮している。生活記録表に水分記入欄があり、できるだけ水分を確保できるようにしている。	<input type="radio"/>	身体や心理、精神状態などの要因による低栄養状態にならないよう一人ひとりの状態を把握し対応する。栄養バランスについてもっと考えたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	医師の話をきき、洗濯物などは一緒にあらわない・入浴後のお湯は変えるなど対応している。漂白など行う。感染症対策マニュアルがあり、布巾や食器の消毒、散歩の後のうがいや食事前の手洗い等の取り決めがあるが、うがいや手荒いに関しては励行できていないこともある。食器や調理器具の消毒の頻度も適当であるか不安。インフルエンザの予防接種受けている。	○	手洗い、掃除、洗濯等スタッフ間で対応の仕方を確認しあう。感染症に関する知識が薄く、対応の仕方がわからない部分があるのでしっかりと知識を身につけていく必要がある。自分自身の体調管理に気を付けつつさないように心掛ける。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物に行って古い食材は使わない。食中毒発生時は刺身や生ものは禁止している。布巾は毎日漂白を行い、まな板は週2回漂白を行っている。ホウ酸団子を配置した。調理器具や食器の漂白を週に何度か行っているが、台所周りの汚れが気になる。	○	衛生管理がどの程度行われているか把握し、責任者をおくなどして管理を徹底する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は玄関の鍵を開け、開放している。玄関にはベンチがおいてあり、利用者がよくしようしている。玄関は日中オープンで花や小物が置いてあったり、利用者の日常生活の写真が飾ってある。玄関の花や鉢を面倒を見る人がいないため、水切れや枯花が目立つときがある。	○	写真や花、小物等、季節や暦に合わせた飾り付けをし来訪者が安心して出入りできるよう心がける。訪問者が多くなり車で見える方の駐車スペースについて検討が必要。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場はスタレを使用している。玄関や窓を大きくとっており、自然の光が入るので天候に合わせてカーテンや電気で調整している。夜間のリビングがライトの点かないところがあり暗いままになっている。季節の花を飾る等の配慮をしている。リビングは生活感や季節感とれていない。	○	異食や事故など利用者の安全を踏まえた上で心地よい共用空間づくりについて検討する。季節の花を飾る。1入居者により照明やテレビの利用等が仕切られている対応策を考える。玄関の戸の閉め忘れが多いため夏は蚊が入るので気をつけたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフルーム・リビングにソファがおいてあり、ゆっくり過ごせるようになっている。中庭にベランダ(?)をつくり、日向ぼっこなど出かけるようになっている。玄関に畳みコーナーを設置している。利用者は喫煙所や事務所、スタッフルームに設けられたテレビスペースに自由に入出入りでき、独りになれたり、気のあった利用者で過ごすことができる。リビングでは一人ひとりの個性や座る位置を考え、気のあった人、顔なじみの人で落ち着けるようにしている。	○	利用者同士で合う人合わない人がいるので、スタッフが間に入るようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>昔から使用しているタンス・ベッドを持ち込み、居心地のいいようにしている。家から持って来た仏壇を居室に置かれている利用者は、毎朝のお供えものを日課として過ごされている。家族の写真を飾っている。家族と相談し家具などを使いよく配置している。</p>	
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>掃除の時間は窓をあけ、換気している。居室にすることが多い利用者もおり、熱中症にならないよう時々様子を伺い換気している。毎朝、天候の良い時は換気を行っている。特に臭いが気になる居室は必ず換気している。各居室に温度計を設置してあり、エアコンで調節している。身体状況に合わせ加湿器の併用をしている。においが強いときには消臭剤を使う。</p>	○ 各居室によって温度差がはげしいので気をつけたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>建物は平屋建てで、段差は少ない。手すりが多く設置されている。建物内は段差がなくリビングやトイレ、風呂場には手すりがありバリアフリーの設計になっている。利用者の状態に合わせて居室トイレの手すりを追加している。ベッドより転倒しやすい利用者の居室の床に転倒時のショックを吸収する為の絨毯を敷く事で骨折の危険を回避している。シルバーカーや杖などを使っている。</p>	○ できるだけ自立した生活を送れるように一人ひとりにどのような工夫が必要なのかスタッフ間で話し合う。浴槽での座位、立位困難の方のための福祉用具を検討。
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>出ることと出来ないことなるべく把握し、見守るがようにしている。失敗があっても不安にならないよう見守っている。利用者の各居室に表札、個々の暖簾を掛ける事で個人の特性を生かそうと心がけている。混乱や失敗がないように見守り、援助に心がけている。</p>	○ 一人ひとりの利用者のわかる力を理解し、より良い環境づくりができるよう考える。
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>花の好きな人には花壇、畑仕事の好きな人には畑を提供し野菜の栽培(植え付け、水やり、草取り、収穫)をしている。できる方が少ない為活用出来ない。庭でバーベキューや取った草や廃材で焼き芋をしている。中庭にテラスを張り利用者が気軽にひなたぼっこができるようになった。七夕会、盆踊り、ゲートボール等活用されている。</p>	○ 利用者が楽しめるように話題の提供と下準備を整えておく。中庭のデッキを活用できると良い。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ①ほぼ全ての利用者の 6 ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	5 ①毎日ある 1 ②数日に1回程度ある 1 ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	2 ①ほぼ全ての利用者が 6 ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ①ほぼ全ての利用者が 6 ②利用者の2/3くらいが 1 ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ①ほぼ全ての利用者が 3 ②利用者の2/3くらいが 4 ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	4 ①ほぼ全ての利用者が 4 ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	3 ①ほぼ全ての利用者が 4 ②利用者の2/3くらいが 1 ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ①ほぼ全ての家族と 1 ②家族の2/3くらいと 5 ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ①ほぼ毎日のように 2 ②数日に1回程度 4 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 6 1	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	2 6	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 4 3	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 6 1	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の生活、一日一日を大切に生活しています。外出やイベントに地域の人を招いたりする事でノーマライゼーションの活動をしている。普通に暮らすにはどうしたら良いか考え生活している。人間は支えあいながら生活している。利用者スタッフ家族共にどこかで支えられていることを忘れず、感謝の気持ちを持ち暮らして欲しい。どこかに楽しいことはないか、どこかに楽しめることはないか外に出てみよう、帰ったらホット一息つける家にしたい。